

●生活科をたくさん見てきた人に聞く

・意欲・持続・工夫・表現・協力は
 どんどこどこに表われるか

生活言語飛びかう
 本物の世界を

静岡大学◎馬居 政幸

一 私の採点基準

活動が、子ども一人ひとりの日常生活と、どのようにかかわっているか。

これが、授業を見させていたかどうかの際の、私なりの生活科授業採点の基準である。

②地域の人の協力度

③さまざまな専門家の協力度

もちろん三者の組み合わせは様々、兼ねる場合もある。重要なのは、子どもの生活を構成するのは教師のみではないということ。様々な人との出会いの過程で、子どもは一人の人間として自立するために必要な力を培う。生活科も同様。誤解を恐れずに言えば、どれほど多くの人を巻き込んだかが、生活科成功の秘訣と考える。ところで、本稿への編集部の依頼は、「意欲」、「持続」、「工夫」、「表現」、「協力」は、それぞれ「どんなところに現れるか」ということ。この問いには、正直いってとまどった。理由は二つ。

一つは、いずれの項目も、生活科の活動過程においては、個々別々に現れるのではないこと。二つは、その現れ方は活動内容によって異なるはずであること。

ただし、実際に先生方が授業を見る際に気になる観点であることは理解できる。

そこでここでは、子ども達の特定の行動を教師として、意味づける（評価する）際の五つの観点として考えたい。

具体的な授業で例示してみたい。

二 大阪弁の世界に誘われて

次の学習指導案は、本年七月二十八日、大阪教育大学附属天王寺小学校において開催された、生活科授業研究会第九回研修会

生活科学習指導案

指導者 稲葉 正 治

- 1.日時 平成5年7月29日(木) 9:30~10:15
- 2.学年・組 第2学年1組(男子21名、女子16名、計37名)
- 3.単元名 お店ごっこをしよう
- 4.指導にあたって

「先生、お祭りがしたいな。」と言ってくる。「去年、2年生が招待してくれたでしょ。あんなのやってみいな。」と口々にいう。よく聞いてみると、祭りがしたいというのは、「〇〇を祝う」といったものよりも、出店というイメージが強く、自分たちが店の主人になって、いろいろな人を楽しんでもらいたいということであった。そこで、「夏らしいお店を出してみよう。」と提案することにより、子どもの活動を高めることができると考えた。

子どもたちは、祭りが好きである。それいろいろな出店でいろいろなものを買うのが何よりの楽しみである。実際の店を参考に自分たちでできるものを工夫させ、材料なども自分たちで手に入れることができるものを中心に考え出させることにした。

子どもたちは、友だちが自分のゲームやお店で楽しんでもらうことが大好きである。この子どもたちの、自分たちのお店で楽しんでもらおうという心を刺激すると、より目的に届いた店を考えて作り、運営することができると考える。

また、友だちと楽しく遊ぶことで、友だちの店や運営方法のよいところを知り自分の店に生かすなど広がった活動が予想される。

5.単元の目標 (指導要領との関連 (3)(4))

- ・お店ごっこの活動を計画し、友だちと協力して準備することができる。
- ・お店ごっこの活動を通して、季節の変化に気付くことができる。

6.指導計画 (全5時間)

- 第1次 お店を考えよう …………… 3時間
 - ・自分が出したい店の計画をし、準備をする。
- 第2次 お店ごっこをしよう …………… 2時間(本時はその1)
 - ・仕事を分担して、楽しいお店ごっこにすることができるようにする。

7.本時の学習 (第2次 1時)

- (1) 小単元名 「お店ごっこをしよう」
- (2) 本時の目標
 - ・仕事を分担し、楽しくお店ごっこをする。

(3)展開

教師の働きかけ
 さあ、お店ごっこをはじめましょう。

指導上の留意点
 子どもが意欲的に活動できるように店の場所を設定する。
 友だちと仲良く遊び、協力しあって楽しくできるように配慮する。

予想される児童の反応
 ・たくさんきてくれるかな。
 ・商品はたりるかな。
 ・楽しく遊んでくれたらいいな。
 ・どこで遊んだらいいか考えよう。
 ・頑張って自分の役割をはたそう。
 ・お店をもっとかざらう。
 ・きれいなお店にしたいといけなないな。

予想される児童の活動
 ・仕事を分担してうまくお店を開こう。
 ・きれいに作って売らう。
 ・たくさんの人に来てもらうためによびこみをしよう。
 ・楽しく遊んでもらえるために、きちんとルールを説明しよう。
 ・売り切れにならないように、売りながら作ることもしよう。

指導上の留意点
 安全な場所で遊べているか
 安全に気を付けて用具を使っているかを確認する。

①家庭の人の協力度

活動の中に教師以外の人をどれほど巻き込んでいるか。

これを判断するポイントは次の三つ。
 ①実際の活動と学習指導(活動)案の内容がどれほどズレているか
 ②子ども同士の世界がどれほどあるか
 ③教師が子どもたちの間(あいだ)の世界に生きているか

子どもたちの活動が、先生の意図をどれだけ越えているか。

さらに、この基準を具体化するものとして、次の二つの観点で授業を見ることを心掛けています。まず第一の観点。

すなわち、活動が学校の中のみでなく、家庭や地域社会での「生活経験」子ども固有の世界」とどのように結びついているかが、生活科授業の採点基準。子どもの生活の場は、学校と家庭とその間(あいだ)の世界全体に広がるからである。

もちろん、ただ活動すればよいというのではない。どんな活動でもよいというわけでもない。子ども一人ひとりの「日常生活に根ざした」必然性と意味づけに基づいた活動でなければならぬ。

もちろん、ただ活動すればよいというのではない。どんな活動でもよいというわけでもない。子ども一人ひとりの「日常生活に根ざした」必然性と意味づけに基づいた活動でなければならぬ。

学校の中の正しい言葉は標準語。生活の中の正しい言葉は方言。

活動が、先生の意図を越えて、本当に子どもの生活世界に根ざしているかどうかを判断する最も簡単な方法は、方言が飛び交っているかどうか。これが私の生活科授業採点の第一観点の具体化の方法である。

第二の観点は、

での稲葉正治先生の授業のものである。

私が稲葉先生の授業を見るのはこれで二回目。一回目は六月十二日に、同じ天王寺小学校で開催された日本生活科教育学会第二回全国大会での公開授業。その際、千名近い参観者をかき分けて、大阪弁まるだしで子ども達に声をかけながらダイナミックに動く稲葉先生の姿に圧倒された。(本大会の全内容は本誌別冊として発売予定)

七月二十八日はさらにすさまじかった。二千名近い参観者が津波のように襲ってくる中で授業は進められたからである。

学習指導案にあるように、単元名は「お店」で「こしよよう」。「指導にあたって」の欄には、「自分たちが店の主人になって、いろいろな人に楽しんでもらいたい」とある。社会科のはたらく人よりもさらに子どもの生活世界に根ざした視点である。

実際にお店を出して用意した商品を売るのが本時の活動。「仕事を分担し、楽しくお店」をやる」と、「本時の目標」にある。「指導上の留意点」には、「意欲的に活動できるように店の場所を設定する」、「協力しあつて楽しくできるように配慮する」、「安全に気を付けて……」とある。「予想される児童」の「反応」と「活動」には子どもの姿が記されている。

生活科の学習指導案としては、非常に簡潔明瞭でわかりやすいが、その分、やや工夫不足？かな。これが一読しての私の感

奔の掛け合い飛び交う中で、ただ一人ぼつんと中庭に座っている男の子に私は気がついた。彼の頭の上には三メートルくらいのロープがはられ、十枚の紙のお皿でつくったお面がぶらさがっていた。

彼に気づいた(と私は思った)稲葉先生は、側によつてきて声をかけた。

「座っているだけではあかん。しっかりコエー(声)だして売らな！」

彼は小さな声でお客さん呼び込み始めた。でも、お面は売れず、最後まで一人で座っていた。

授業終了後の検討会で、「だれがこの活動で変わったか」との質問に、稲葉先生は彼のことを上げた。私は驚いた。だが、稲葉先生の説明を聞いて自分の不明を恥じると同時に、生活科の授業の素晴らしさを改めて感じた。

稲葉先生によると、お面屋の主人であるB君は、これまで非常におとなしく、人の言うことは素直に聞くものの、自分から進んで何かをしようとしないう子であった。いつも教師の指示をもとめ、友達のとにいていく子であった。

ところが、今回は自分一人でお面の店を出すといつて、準備をはじめた。お面は紙の皿に穴(目)をあけ、折り紙をはり、ペンで書いたもの。全部で十個。一つ一つ違う顔であった。そして、洗濯ロープと洗濯バサミを家から持ってきて店をつくり始め

想であった。だが、実際の授業で私が目にしたのは、非常に複雑多岐にわたる子ども達の活動と参観者の間をエネルギーに渡り歩く稲葉先生の動き。そして、私の耳に届く先生の声は、この指導案に書かれたような丁寧な表現ではなかった。

その代表が次の言葉。
「キミネー、自分の店ほつたらかして……もどつてきなさい」

叱られているのは、「一円玉落とし」の店の主人であるA君。他の店で遊ぶのに夢中で自分の店にいなかったからである。

急いで店に戻ったA君。だが、先生が離れると、再び参観者にまぎれて他の店に。それに気づいた稲葉先生が再度の注意。

「お客さんほつたらかしたらアカン、なにあそんどるねん」

このように書くくと、非常に厳しい先生のように思われるかもしれないが、実際は逆である。まさにその怒り方は関西喜劇の雄「ヨシモト」のノリ。そのためか、先生が声を出せば出すほど、A君に限らず、子ども達はみんな生き生きとしてくる。

先生の意図どおりかどうかは別として、子ども達の活動は益々活発になる。稲葉先生の人柄なのか、大阪弁の妙味なのか。多分、双方の相乗効果であろう。

三 水屋さんの店先で

「あんた、いれもんがきたなかつたら売た。この時初めて先生は手伝った。一人でロープを張れないからである。」

B君にとつて、友だちと一緒にやらなくても一人でできたこと、これがこの活動の最も重要な意味であり、稲葉先生の評価のポイントであった。

検討会終了後、私のインタビューに、稲葉先生は私に笑顔で語ってくれた。

「これでB君はこれから自信もつて友だちと一緒にやれますねん、ほんまうれいすわ」

お店に座ったB君の活動を、私は弱々しいものとしか捉えられなかった。だが稲葉先生は、一人で座っているB君の姿にかつてない「意欲」を、また、一つ一つ異なる顔のお面に精一杯の「工夫」と「表現」を見出されていた。そして、「一生懸命勇気をだしてお客を呼び続ける小さな声に、「持続」への努力を痛いほど感じ取られ、他の子どもたちと「協力」できる力が確実に育まれていることを確信されていた。

五 商品は本物

シャボン玉屋、さかなつり屋、ヨウヨウ屋、輪投げ屋、と様々な店屋が開店していたが、共通していることが一つあった。店の商品や景品の多くが本物であること。この理由について検討会で質問が出た。稲葉先生によれば、この活動を始める際に次のような会話があった。

れへんで」
「うん、あらいいくもん」

場所は女の子四名で経営する水屋の前。稲葉先生と手回しの家庭用水づくり機で水をかいている女の子との対話(どなりあい?)、と少なくとも大阪弁になれていない方なら思うかもしれない)である。

彼女達は自分で水を食べたかったから水屋さんを希望した。ところが客が次々と来て、よくれた器がたまってきた。そこに先生が登場して声をかけた。

最初、四人とも水をつくる係を望んだ。だが水をつくる機械は二台。交代で作業に当たった。それが先生の問い掛けをきつかけに、いつのまにかお客を呼び込む人、水をつくる人、順序よく水を渡す人、器を洗う人、と四人の作業分担ができあがり、益々、店屋は繁盛するようになった。

水が食べたい、これが彼女たちの活動の動機。それが客の増加とともに、水を売ること自体に「意欲」が沸いてきた。そしてもつとお客さんに来てもらうためには、四人が「工夫」して仕事を分担し、「協力」することが必要であることに気づいた。それぞれが各自の仕事を精一杯「表現」する。すると益々お客さんが集まり、四人は益々張り切つて活動を「持続」し続けた。

四 たつたひとりのお面屋さん

先生と子どもたちの陽気で騒々しい大阪「生活科の授業に先生がたたくさんきややるけどなにしたらええ」

「お祭りがええは」

「せんせい、ほんものでもエエー?」

「きみら、やつたことあるー?」

「おかあさん知ってるもん」

「うちにいっぱいあるもん」

指導案にあるように、当初、先生は、子どもたちは一年の時に招待されたことを思い出して祭りを望んだと思つた。だが、子どもたちは、実際に行つた地域の祭りの夜店で経験したことをもとに、本当のお店をやりたいがっていることがわかつた。

そして、子どもにとつてお祭りは、本物のミルクセンターが不可欠であることに気付いた。だが、やはり迷つた。同僚の津川先生や西川先生に相談した。

「やつたらええねん。やつたら」

「子どもが喜んでくれたらええねん」

これが両ベテランの答え。

意を決して子どもたちのお母さんに相談した。地域の子どもの会で活動しているお母さんと自営(コンビニ、オモチャヤ)のお母さんからすぐ返事が帰ってきた。
「センセイ、心配せんでエーヨ、マカシトキ」

当日、稲葉先生が用意したのは水だけ。参観者に混じつて、七人のお母さんが、先生と子どもたちの活動を見守つていてくれたことを、後日、稲葉先生に伺つた。

生活科らしに 「授業採点」のポイント



●理論に強くなる連載講座

●生活科の授業ってどこを見ればいいのか……

そんな悩み？に答える特集企画で～す！

◀特集ガイド



◆グラフィックコメントⅡ生活科授業パフォーマンス
自学ノートとおいしい生活科の授業 藤本 浩行 1
◆生活科授業に使える学習クイズ 上田 洋一 5
◆全国生活科ホットライン情報 谷川 彰英 8

生活科の授業検討は他教科とどこが違うか——斎藤勉・秦セイ・長南博昭 9

「仕掛」がなければ生活科ではない！
連続の中に必然性が生まれる授業を
教師の児童への対応が児童を変える
活動のめあてを大切にしたいから指導案にこだわりたい
生活科授業をたぐくむ見方を変えたい人に聞く
林 陽子 13

「意欲」「持続」「工夫」「表現」「協力」はどんなところに現れるか 馬居 政幸 14

先達校に聞く 生活科授業検討の視点はどこだ？
授業者・参観者の思いを大切にすると
「待つて育てると」「親心」の目で授業を見直す
その子のよさや可能性を引き出す授業設計を求めて
活動意識が連続していく姿を求めて
一人一人のよさを生かす活動
子どもの気づき、つぶやきが生かされる授業になっているか
原 南実子 33

活動場面に即した授業検討の視点はどこだ？
「調べる活動」における授業検討の視点 寺本 潔 36

「作る活動」における授業検討の視点 渡邊 健司 38

「育てる活動」における授業検討の視点 藤井 清 40

「イベント活動」における授業検討の視点 堀田 吉宏 42

子どもへの願いの実現度の子エックポイント 杉浦 史恵 44

生活科授業を「目」で評価する視点——学期ごとの「目」評価の目安は何か？
体験から創り出したわたしの目安 有田 和正 56

生活科授業参観の視点——参観言われたこととはほんとは？
環境構成の子エックポイント 池澤 正昭 46

導入活動の子エックポイント 熊谷 和彦 48

机間巡視の子エックポイント 中岡 恒子 50

まとめ活動の子エックポイント 貞包 弘章 52

指導案とのずれの子エックポイント 茅花 英司 54

生活科授業を「目」で評価する視点——学期ごとの「目」評価の目安は何か？
教師がどこにいるかわかる？ほんとかな？
「早くもつじやらない」が出れば成功？
ひとりを見るか、全体を見るか——どっちがよい？
指導と援助の違いはどこか？
活動の振り返りは表現活動オンリーでよいか
生活科研究のポイント 7
おもちや作りの単元を見直す
生活科研究のポイント 7
「生活科号のゆくすえを探せ！」(その3)
これは便利すぐ使える生活科カード
生活科授業の自己採点カード 増田郁夫・山本正人 82

コピーOK教材
生活科授業参観の子エックポイント 岡崎紀明・岡田紀世子 84

表紙3・4/子どもの作品紹介 田上典子
表紙デザインカット/飯島英明